

羅臼岳登山道における携帯トイレ用ブースの導入計画について

野川 裕史(ウトロ自然保護官事務所 上席自然保護官)

羅臼岳では平成20年度より関係機関が連携して携帯トイレの利用促進を行っており、平成24年度には携帯トイレ用ブース（携帯TB）の整備が予定され、平成25年度から本格運用が開始される予定である。

本稿では、導入を検討するために実施されてきた仮設携帯TBを設置しての利用者意識調査の結果報告と本格運用に向けての管理体制の検討状況について紹介したい。

1. 平成23年度仮設携帯TB導入実験

羅臼岳登山道では、環境省事業により、平成20年度より携帯トイレに関する利用者アンケート調査を開始し、また、平成21年度からテント型の仮設携帯TBを期間限定で試験的に導入し、利用者数の把握や、使用感などのヒアリング及び維持管理の作業量・仮設携帯TBの利用状況把握の調査を実施している。

1-1. 仮設携帯トイレ用ブースの運用結果

平成23年度もテント型の仮設携帯TBを7月15日～8月18日の35日間、銀冷水に2基設置した。設置期間中は1週間に2回の割合で計9回の仮設携帯TBの確認・清掃の維持管理作業を実施した。

■ 試験的導入の結果

- *35日間の導入期間中、銀冷水に設置した2基の仮設携帯TBを利用した人数は、手押しカウンターの集計から合計198名と推定される。これは昨年度の24日間設置（弥三吉と銀冷水で各1か所）で合計50名の利用者数字から大幅に増加している。（ただし、アンケート調査結果では仮設携帯TB使用率は昨年度と殆ど変わっていない）
- *維持管理作業結果からは、昨年度にあった明らかな携帯トイレキット未使用での用足し（通称：生トイレ）の痕跡は見られなかった。（維持管理作業の際にテント内での尿臭が時折感じられたので何回かは不適切な使用がされていたかも知れないが、次の利用をためらうような汚れた状態ではなかった。）一方、仮設携帯TB周辺での大小便の用足しは散見された。
- *風雨などによるテント自体の損傷はなかったが、テントのペグが抜けていた事もあった。これは仮設携帯TB周辺での用足しの際に誤って利用者に引っかけられたと推察される。
- *一部尿臭が感じられたり、テント内にゴミが散見されたりしたが、全体的に2つの仮設携帯TB共概ね良好な使われ方をされていた。

表1 過去の携帯TB 利用者

年度	携帯TB設置期間	期間中の登山者数	携帯TB利用者計
平成21年度	8/14~16 3日間	124人	8人
平成22年度	7/30~8/22 24日間	1,440人	50人
平成23年度	7/15~8/18 35日間	2,298人	198人



写真1 銀冷水に35日間設置した2基の携帯TB

1-2. アンケートによる利用者の意識調査結果

■調査方法

- *携帯TB（テント式）設置期間中に登山口の木下小屋前にて下山者に対し、直接記入式のアンケートを行った。
- *アンケートは比較のため昨年度と同じ様式を用い、計9日間のアンケート調査で282通の有効回答を得た。

■アンケート調査結果

- *携帯トイレ（キット）の持参者は回答者本人で34.8%で、グループの他の人が持っていた（2.8%）と合わせても35%強の人が携帯トイレを持参していた。この結果は平成20年～22年の過去3年間の数字3割～4割と比較しても変わっていない（図1参照）。
- *知床での携帯トイレ推進活動を事前に知っていた人は全体の59.9%で、この数字も過去の3年間の数字と比較して殆ど変わっていない。この理由としては、毎年の登山者の7割以上が初回の登山者であることと推進活動が登山者全体に浸透していないためと考えられる。
- *登山者の中で登山中に大小問わず用足しした人は全体の4割強で、そのうちの1/4が携帯トイレキットを利用しているが、残りの3/4は携帯トイレキットを使用せずに山中で用足ししている。この数字も仮設携帯TBを試験設置した過去2年間と比較すると殆ど変化がない（図2参照）。

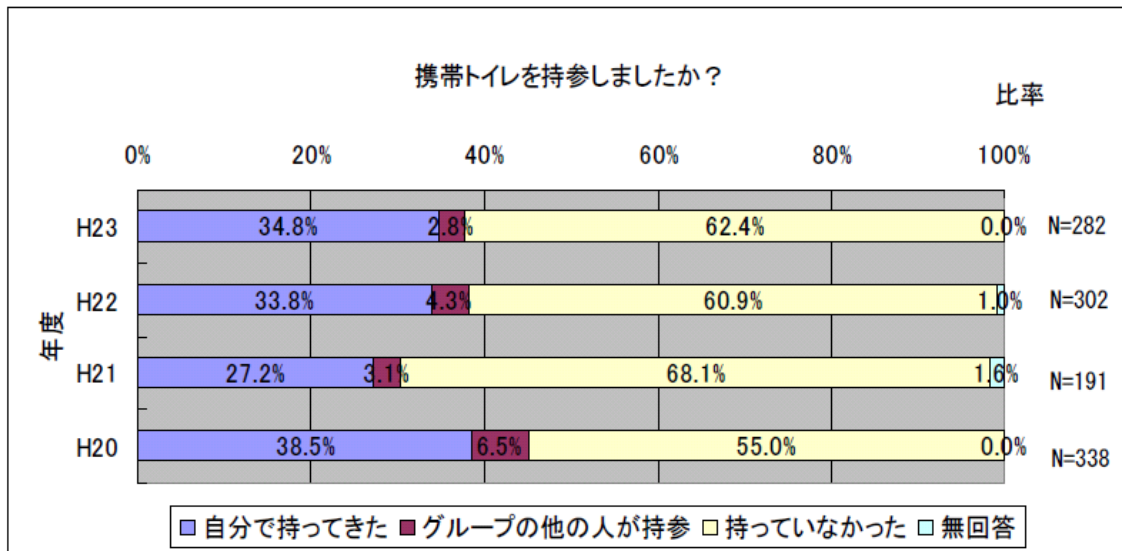


図1. 携帯トイレの持参率

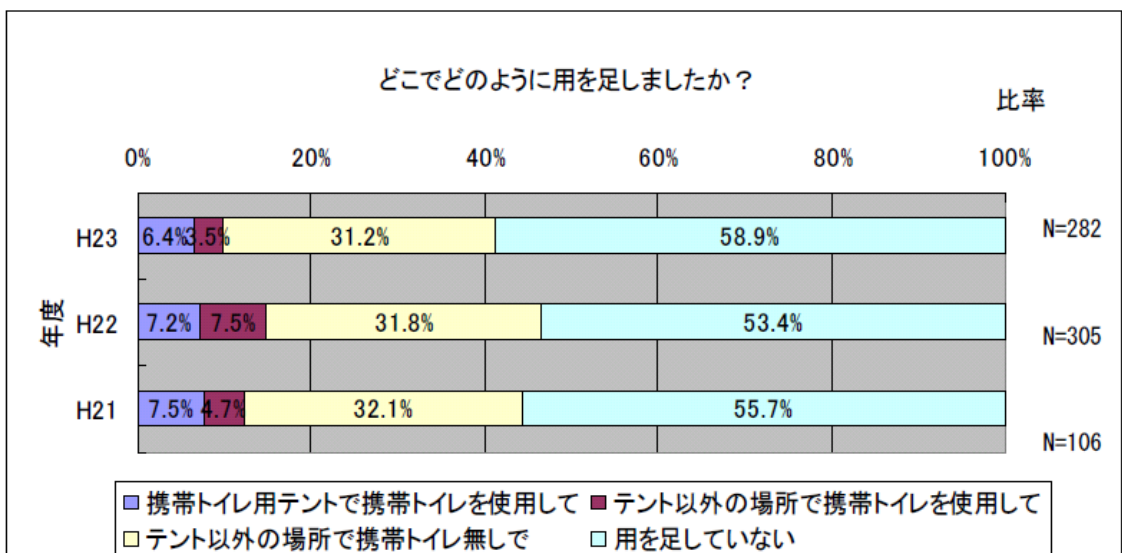


図2. 用を足した場所と方法

- * 期間中に携帯TB を利用した人（手押しカウンターでは198名）の中でアンケート調査時に回答をもらったのは僅かに18名であった。その18名の携帯TBの利用感想は、概ね良好であった。この結果は昨年の携帯TB 利用者の回答（22名）と同じ結果であった。
- * アンケートに回答した登山者全体の約7割が「携帯TB があれば携帯トイレを利用する」と答えておりこの結果は過去3年間のそれと同じであった。
- * その他の自由回答では、知床での携帯トイレの取り組みに好意的な意見の他に、販売場所を増やす事や羅臼平への設置など、更なる取り組みに対する要望の声が寄せられている。

<アンケートに寄せられた自由意見（53 件中10 件を抜粋）>

1	今回利用はしなかったのですが、携帯トイレがあったので、いざという時使えると思い安心しました。
2	利尻でも利用したが、時代の流れだと思う。
3	羅臼平にもトイレブースを設置した方がよいのではないのでしょうか。最初はトイレ用ブースに気がつかなかった。
4	小便の場合、なかなか難しい問題です。大便(テント泊)では、使用しています。
5	トイレテント等があると知っていたら、持ってきていたかも…。
6	初めて目のあたりにして良い試みと感じていますが、登山者のモラルや意識の向上が無ければ、トラブルの元になってしまうかもしれないと思います。
7	登山口から何分位の所に用意してあると分かれば利用すると思う（どこに設置してあるのか不明だから）
8	登山口に近いコンビニなどで販売するとありがたいです。
9	屋久島に行った際、トイレのことに感心を持ちましたが、具体的に思考行動はしていなくて恥ずかしく存じます。ありがとうございました。
10	トイレブースの維持に入山料を払ってほしいと思います。

2. 羅臼岳登山道管理体制の検討

知床国立公園の主要登山ルートである羅臼岳登山道での携帯トイレ使用の推進については、平成 17 年度に知床の適正な利用のあり方を定めた「知床国立公園利用適正化基本計画」において、「知床連山地域において携帯トイレの普及及び回収方法の検討を行うこと」とされ、平成 20 年度から登山者に対する使用の呼びかけ及び使用済み携帯トイレの回収を開始している。

固定式携帯 TB の設置については、携帯トイレ使用の呼びかけを始めた当初より、登山道の行程内に山小屋等の拠点施設がない場所における維持管理の困難さや、関係機関・団体による協力体制の構築など設置に対する課題が挙げられており、この課題を確認し対処するため、平成 21 年度よりテント式の仮設携帯 TB を試験的に設置し前章の調査を実施してきたところであり、並行して進められているのが維持管理体制の検討である。

平成 22 年度より、環境省では関係行政機関、山岳会、地元山岳ガイドと共に、羅臼岳登山道の保全修復のための整備や固定式携帯 TB 設置の検討を進めるための組織として「羅臼岳登山道保全修復懇談会」を立ち上げ、登山道の維持管理と修復のあり方について意見交換や、維持管理のための技術講習会の開催などを行っている。課題の共有化や協働作業を通じ、維持管理体制の構築についての整理を図り、平成 24 年度から新たな管理組織体制の設立に向け作業を進めている。

新たな体制では、各機関・団体が協議会としてまとめ、これまで各地域、各分野で行われていた管理行為について、普及啓発から現地管理までを一体的に調整し、各々の役割を連携させることを目指している。

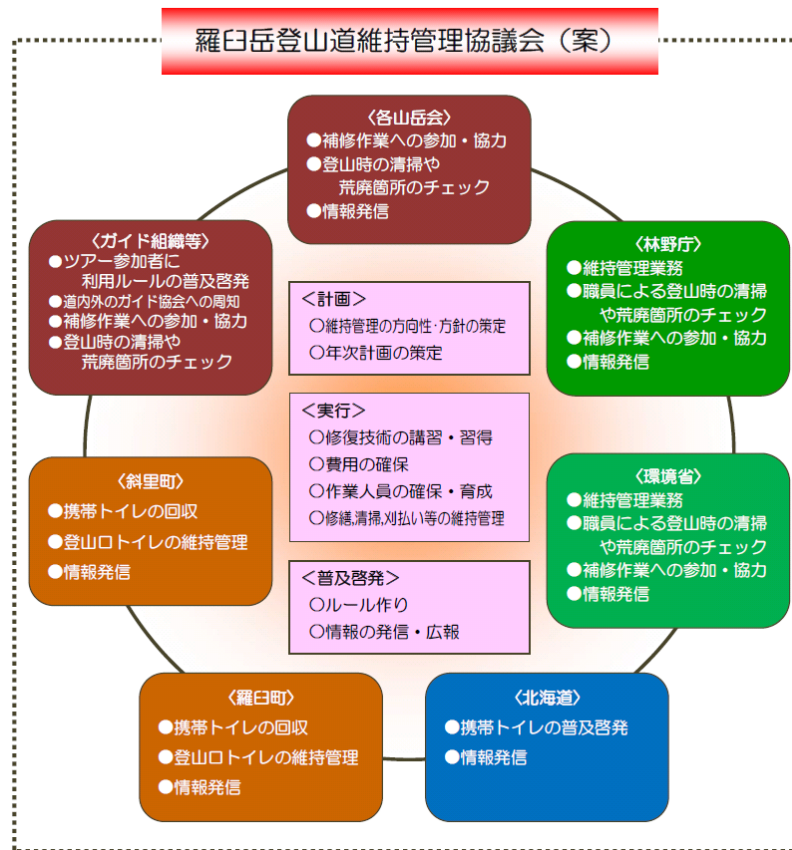


図3. 羅臼岳登山道維持管理体制（協議会形式）のイメージ

3. 平成23年度仮設携帯TB導入実験の総評

アンケートからは、固定式携帯TBを本格導入することにより、使用率向上が期待できる結果が得られた一方で、実際に携帯トイレキットを持参している利用者は、この3、4年間変わっておらず、携帯トイレシステムの認知度向上、使用方法の普及、キット持参率向上のための活動・工夫が必要であることが明らかとなった。

携帯トイレ使用の推進には、施設の整備だけでなく、旅行計画時、入山前、携帯トイレ使用時の各段階に応じた適切かつ十分な情報周知が必要であるとともに、使用感を悪くしないための尿臭対策を含む適切なブース管理が必要となる。

整備後の広報普及や管理活動が重要となることから、羅臼岳に関わる多くの関係者が連携し、各自が役割を担って連携を図る仕組みが必要となる。今後とも、平成25年度からの本格運用に向けて、関係者と協働の喜びを感じられる取り組みを増やしていきたい。